

音楽科学習指導案

広島市立〇〇中学校
教諭 〇〇 〇〇

1. 日時 平成22年11月〇日(〇)
2. 学年・学級 第1学年〇組
3. 題材 「日本の伝統文化に親しむ」
4. 教材 「さくら」「さくら 変奏曲」
5. 題材の目標 箏の特徴を理解し、音色を感じ取り、主題の合いの手を工夫し表現する。

6. 題材について

本教材は、新学習指導要領で、第1学年 2内容 A表現 (4)ア「我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切で、生徒にとって平易で親しみのもてるものであること。」と、第3指導計画と内容の取扱い2(2)「なお、和楽器の指導については、3学年間を通じて1種類以上の楽器の表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫すること。」、創作については(5)「即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。」と示されたことに関連する内容である。

本題材で取り上げる箏の特徴として、①比較的短期間に日本独特の音色を味わうことができる。②音の余韻や撥弦にいろいろな変化をつけることができる。③調弦による音階の設定が可能であるため、即興演奏や合奏に適している。④従来の五線譜の譜読みが十分できなくても楽しむことができる。に焦点をあて、1学年で箏を扱い、発展的な学習として創作活動に取り組むこととした。

「さくら」(日本古謡)は有名で演奏しやすく、親指の基本的奏法で演奏することができるので、箏への関心意欲を高めることができる教材としてふさわしい。指導にあたっては「さくら変奏曲」も平行して扱い、中指の奏法、合せ爪、スクイ爪の奏法を取り入れ、奏法による響きの違いを感じることができるように工夫するとともに、主題とのアンサンブルを楽しんだり、合いの手を創作する際に参考にするようにした。

第1学年の生徒は男女の仲も良く、学級の班を活用した歌唱活動やリコーダーアンサンブルにも積極的に取り組み、表現の工夫をすることができる。小学校で箏を体験したことのある生徒は非常に少なく、ほとんどの生徒が今回初めて箏の演奏を経験する。

最後に、小グループ(4人)をA・Bのチームに分け、ペアとなって活動し、グループで両チームの創作を取り入れたアンサンブルを発表することで、演奏の共有化を図り、「さくら」の旋律にあった合いの手のイメージを広げたい。

7. 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
題材評価規準	・箏の音色や奏法・特徴などに関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。	・箏の音色や特徴を感じ取り、奏法の変化による響の違いを感じ取り、表現を工夫している。	・箏の基本奏法を身に付け、平調子の特徴を生かして表現している。
具体的な評価規準	①箏の音色や奏法の特徴に関心を持ち、表現することに意欲的である。 ②「さくら」の合いの手創作に意欲的に取り組んでいる。	①箏の奏法を理解し、音色の違いや特徴を感じ取って表現を工夫している。 ②「さくら」の旋律に合った合いの手を工夫している。	①箏の基本奏法を身に付け、よい音色で演奏している。 ②創作した合いの手を工夫して表現している。

8. 指導計画(全5時間計画)

時	☆ねらい ○学習(指導)内容 ・学習活動	【評価規準】 (評価方法)	共通事項	教材
1	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">☆箏の歴史や仕組みを知り、楽器に触れ音を出してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○箏の歴史と楽器のしくみについて学習し演奏の準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本に伝わってからの歴史や、楽器各部の名称、柱の役割について知る。 ・座り方、構え方、親指の基本奏法。 ○弦を弾いて響きを楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・親指の基本奏法(次の弦で止める)を確実にする。 ・きれいな音はどんな音か探しながら弾く。 ○楽譜の読み方を知り「さくら」を途中まで練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・山田流の楽譜と生田流の楽譜を知る。 	<p>【ア①】 (観察)</p> <p>【ウ①】 (観察)</p>	音色	「さくら」 日本古謡
2	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">☆箏の基本奏法を使って、いろいろな響きを感じ取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「さくら」で使われる奏法を学習し、最後まで演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・押し手、合わせ爪の奏法を知る。 ・ペアで互いの響きを聴き合う。 ○箏の基本奏法を鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> ・箏の基本奏法の説明と「さくら」の演奏。 ○再度「さくら」を練習、合奏する。 ○新しい奏法と記譜法を知り、練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・スクイ爪、中指の奏法、合せ爪。 	<p>【イ①】 (観察)</p>	音色 旋律	DVD
3	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">☆箏の多様な奏法に挑戦し、演奏を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の復習として「さくら」を演奏する。 ○「さくら 変奏曲」を練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・新しい奏法の確認と復習をする。 ・変奏曲の中にある主題の部分を見つけ、マーカーで色づけをし、旋律の違いを意識する。 ・3つの部分に分けて交代しながら練習する。 ・「さくら」の旋律と合わせる。 ○「さくら 変奏曲」(その2)でさらに多様な演奏に挑戦する。 	<p>【イ①】 (観察)</p>	旋律 音色	「さくら」 日本古謡 さくら変奏曲 さくら変奏曲 (その2)
4 本時	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">☆「さくら」の合いの手を創作しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の復習として「さくら」「さくら 変奏曲」を演奏する。 ○「さくら」の一部分に合う合いの手の旋律を創作する。 <ul style="list-style-type: none"> ・箏のアンサンブルを聴きイメージを持たせる。 ・ア(前半6小節)イ(最後4小節)を、ペアで相談して創作する。 ・2人一組で交互に練習する。 ○ペアで中間発表する。 	<p>【ア②】 (観察)</p> <p>【イ②】【ウ②】 (観察・ワークシート)</p>	音色 旋律 リズム	「さくら」 日本古謡 さくら変奏曲 CD
5	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">☆「さくら」のアンサンブルを発表し、箏の音色を楽しもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の復習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの楽譜から創作した旋律を思い出し、練習する。 ○グループで発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・アがAの創作ならイはBの創作とし、イをAが合いの手、Bが主題担当で演奏する。イはその逆とする。 ・イは全員で主題を演奏する ○まとめ 	<p>【イ②】 (観察・ワークシート)</p> <p>【ウ①】 (観察)</p>	音色 旋律 リズム	「さくら」 日本古謡

9. 本時の学習(第4時)

【目標】「さくら」の旋律にあった、合いの手を工夫している。

【展開】

学 習 活 動	○指導上の留意点 【評価規準】(評価方法) ★共通事項
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> ☆「さくら」の旋律にあう、合いの手を創作しよう。 </div>	
<p>1 前時の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さくら」「さくら 変奏曲」「さくら 変奏曲2」の2曲を演奏する。 <p>2 「さくら」の ア (前半6小節) と イ (後半4小節) を示し、どちらかの合いの手を創作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CDを聞き、合いの手のイメージを持つ。 ・1面の箏をペアで使い、合いの手を相談しながら創作し、ワークシートに記入する。 <p>・小グループで交代しながら2面の箏をペアで使い、アンサンブルの練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○箏の基本奏法に注意させる。(座り方、弦の弾き方、右手薬指の位置など) ○今まで練習してきたことを生かし、ペアで1つの合いの手を考えさせる。 ○どのような記譜法でも良いので、記録させ、演奏の確認ができるようにさせる。 ○停滞しているペアには、教師がヒントを与えながら自分たちで創作できるよう援助する。 ○小グループで互いの演奏を聴き合い、アドバイスするよう働きかける。 <p>【ア ②】(観察) 【イ ②】(観察・ワークシート) ★音色・旋律・リズム</p>
<div style="border: 2px dashed black; padding: 10px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p>評価 A と判断するキーワード 奏法からくる音色の違いを感じ取り、主題を引き立てる合いの手を工夫している。</p> <p>評価 C と判断される状況への手だて 「さくら 変奏曲」で練習した旋律を取り入れた例を演奏し、その楽譜から取り入れる方法を示す。</p> </div>	
<p>3 ペアで発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏前に ア と イ のどちらかを告げてから発表する。 <p>4 まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○互いに聴き合える落ち着いた雰囲気をつくる。 ○必要に応じて拍子を取り、発表を支援する。 <p>【ウ ②】(発表) ★音色・旋律・リズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の活動を振り返り、次時に向けての見通しを持たせる。

授業づくりの工夫

- ・創作時に考えやすいよう、「さくら」主題の楽譜から常にア～ワの練習番号をつけ、記譜時もわかりやすいよう1段に2小節とした。
- ・「さくら変奏曲」については、箏の多様な奏法を体験し、音色を感じ取ることができるよう工夫した
- ・「さくら変奏曲」(その2)については、生徒に演奏可能で、創作にあたり合いの手として参考にできるような技法を取り入れるようにした。

授業を見る視点

感性を高め、思考・判断し表現する学習活動の工夫ができているか